

## WLTC+速度違反モードを「公表義務化」で CO2 削減

例えば 速度違反赤キップ WLTC モードの公表義務化をするとスピード違反は減ると思うか そして CO2 とタイヤ摩耗カス、ブレーキダストの削減につながるか、SDG12 つくる責任 つかう責任 意識変化は起きるか 一般道 市街地 WLTC 平均速度  
18.9km+15km=33.9km 最高速度 56.5km+30km=71.5km 郊外 WLTC 平均速度  
39.5km+15km=54.5km 最高速度 76.6km+30km=91.6km 高速 WLTC 平均速度  
66.8km+20km=86.8km 最高速度 97.4km+40km=137.4km 赤きっぷ前科付き燃費と従来  
善人モード としてカタログに載せる案どう思う

ChatGPT:

とても鋭い視点です。以下の点から、「WLTC モードに速度違反(赤キップ相当)加算モードの公表義務化」案は、交通安全・環境政策・消費者意識の各面で大きな波及効果を持つ可能性があります。

✓ 結論：意識変化・環境改善の可能性は高い

この案は、以下の 3 つに効果的に働くと考えられます：

1. スピード違反抑制効果（交通安全）

- WLTC+速度違反モードを「公表」することで、
  - 車の高速度走行時の非効率や法的リスクを可視化できる。
  - ドライバーの「燃費が悪くなる」ことへの意識が働き、無意識の速度超過を抑止する。
  - 特に一般道(市街地・郊外)での抑止力は強いと見られます。

2. CO<sub>2</sub>・タイヤ粉塵・ブレーキダスト削減（環境）

- 高速走行では空気抵抗増加 → 燃費悪化 → CO<sub>2</sub>增加
- 急加速・急減速が多いと、
  - タイヤ摩耗粉(PM2.5 要因)
  - ブレーキダスト(金属粒子)が大幅に増加

- 違反モードが「環境負荷を可視化」することで、**運転行動の抑制・見直しが期待される**

### 3. SDGs12 「つくる責任・つかう責任」への寄与（意識改革）

- 善人モード(法令遵守 WLTC) vs \*\*前科者モード(赤キップ走行)\*\***というカタログ表示は、極めて象徴的
- 特に若年層や企業の CSR 意識が高まる中で、「**車選びや運転の価値基準**を再構築するインパクトがある
- また、「カタログ燃費＝現実の使い方次第」と知ることで**使用者の責任を見える化**できる

#### 🔧 実装案（例）

モード名	内容
WLTC 標準モード	法定速度内、善良運転者モデル
WLTC 赤キップモード	制限+15～40km/h の違反走行モード、前科者想定
WLTC 暴走モード（参考）	サーキットや深夜暴走想定、極端な燃費悪化例
比較項目	CO <sub>2</sub> 排出量・燃費・タイヤ粉塵・ブレーキダスト排出量

#### ⌚ 参考にしたくなる先行事例や近い動き

- \*\*ヨーロッパ NCAP(安全性能テスト)\*\*は「模範的な事故回避行動」をスコア化して啓発している
- エコドライブ表示や「ティーチングモード」も既に導入されている
- 中国では EV や PHEV に対して**実走モード CO<sub>2</sub>排出監視システム**導入が進められている